



2018年

人権一口講座



ゆとりのある社会に

働き方改革というキーワードをここ数年よく聞くようになり、国会でも審議されています。そのきっかけは、二〇一五年のクリスマスに若い女性の尊い命が絶たれた悲しい出来事からではないでしょうか。

大手広告会社の新入社員だった高橋まつりさん。本採用となった10月以降、業務が増加し、うつ病を発症し、12月25日、東京都内の社宅において残念なことに自ら命を絶ってしまいました。母子家庭で育ち、東大に合格。頑張り屋の女の子だったそうです。辞めるという選択肢を考えなかったのか、という人もいますが、それだけ真面目で責任感のある人だったのでしょうか。国が定める過労死ラインの80時間をはるかに越える残業を行い、過酷な勤務だったようです。

日本人は勤勉で働き過ぎだといわれています。その一つの原因として過度に完璧さを求められるあまりそれに答えるため頑張りすぎるところがあるのではないのでしょうか。時間に正確で外国からも驚かされている鉄道ですが、先日、30秒早く電車が出ただけで鉄道会社が謝罪したくらいです。また、これまでの古い考え方で、残業して長時間仕事をするのが頑張っていると評価される風潮があるのかもしれない。

過労死や過労自殺を防ぐには、意識を変えていかなければならないのです。ただ勤務時間を減らせと指示し、そのままの仕事量では結局隠れ残業が増えるだけで何の解決にもなりません。適切な仕事量を考え、しっかりと休養がとれるように配慮する必要があります。

日本はこの数十年で驚くほど豊かになりました。24時間営業の店が増え、ネット通販で注文したものは宅配業者が希望する時間に届けてくれます。しかし、便利さの裏に、過酷な労働環境で働いている人が大勢いるのです。多少不慣れた生活でも我慢しそれに慣れ、みんながゆとりのある生活が営めるような社会のほうか、ずっと幸せなのかもしれません。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」七月号より)



短いメッセージ ごはんだよ 家にかえるといいにおい
家そくといっしょの ごはんがいちばん

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 西原小学校 3年 蜂谷翔さんの作品より